

325) しんしんと雪が降る

ざわめきを拒むよに しんしんと雪が降る  
あしおと  
足音は雪の中 吸い込まれ消えてゆく  
人混みをあとにして 川沿いの道ゆけば  
恋人の面影が ぼんやりと目に浮かぶ

寂しさを覆うよに しんしんと雪が降る  
足跡を踏みしめて 歩いてくこの道に  
すぎし日々ありありと 重なって見えてくる  
まなざ  
眼差しは微笑んで おもいで  
追憶はゆきすぎる

せつなさを包むよに しんしんと雪が降る  
あの日々をともにした 美しき恋人よ  
ときへ  
時空を経て約束は だんだんと遠くなり  
さいげつ  
歳月は哀しみを 思い出に変えてゆく

あやま  
過ちを埋めるよに しんしんと雪が降る  
ぼんのう  
煩惱も絶望も しがらみも閉じ込めて  
人生の哀しみを 永遠に埋めてく  
旅人はただ一人 目を閉じて春を待つ